

2025 年度 大学院内部進学選考（発達心理学専攻・発達心理学コース）

博士課程（前期） 「専門科目」

（2024 年 7 月 4 日実施）

選考・判定方法 《専門科目》《英語》《口述試験》

専門科目（200 点）、英語（100 点）および口述試験（4 段階評価）により評価する。

判定基準

専門科目：100 点以上、英語：50 点以上、口述試験：C 以上のいずれも満たすこと。

《専門科目》（200 点満点）

【1】

出題意図

発達精神病理学に関する基礎的な知識を有しているかどうかを判定する。

正答例

神経発達障害群とは神経発達不全によって生じる特定の行動や認知の特徴のために社会的不適応が引き起こされている状態を指し、DSM-5-TR による代表的な障害としては、知的発達障害、自閉症スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症などが含まれている。知的発達症は、発達初期に発症し、概念的・社会的・実用的な領域における知的機能と適応機能両面の欠陥を含む障害である。自閉症スペクトラム症は、複数の状況で社会的コミュニケーションおよび対人的相互作用における持続的な欠陥があること、また行動・興味・活動の限定された反復的行動様式を特徴とする障害である。限局性学習障害症は、書字・読解・読字・計算・数学的推論などの学習や学業的技能の使用に重大な困難があり、そのために学校や職場での不適応や日常生活活動に機能障害が生じることを特徴とする。

【2】

出題意図

発達心理学の基礎的な知識を有しているか確認するため。また、その知識に基づく具体的な説明ができる力を有していることについて確認するため。

正答例

社会的参照とは、社会的参照とは、問題解決場面や、行動選択場面において、自分だけでは意志決定や行動選択がしにくい時、周りの人の表情や態度、反応をみて行動を決定するような現象を指す。

社会的参照能力の実験として、奥行き知覚能力の発達を検証するために行われる視覚的断崖実験が有名である。以下に、(1) 発達段階、(2) 具体例、(3) 重視される理由の 3 点について説明する。

(1) 発達段階のいつ頃からみられるようになるのか

社会的参照は、生後およそ8か月から12か月頃に見られるようになると言われている。この時期は、乳児がハイハイなどで自ら探索行動を始める一方で、不安や危険も感じやすくなる時期である。そのため、主たる養育者の表情を「安全な状況かどうか」を判断する手がかりとして活用するようになることが多い。

(2) 社会的参照を行っている場面の具体例

例えば、赤ちゃんが初めて見た犬に近づこうとしたとき、不安を感じると母親の表情を確認する。母親が笑顔であれば安心して犬に近づくが、不安そうな顔をしていれば、赤ちゃんも警戒して近づくなくなる場合がある。このように、赤ちゃんは大人の表情から「安全か危険か」を判断して行動を決定することがある。

(3) 社会的参照が重視される理由

社会的参照が重視される理由は、乳幼児が周囲の環境に適切に適応し、安全に探索行動を行うために重要な役割を果たすからであると考えられている。また、人間関係における情緒的な理解や共感の基礎を築く点でも重要である。この能力は、その後の社会的なコミュニケーション能力や自己制御の発達にもつながることが示唆されている。

以上より、社会的参照は乳児期後半に芽生え、子どもが安全に環境に適応し、周囲の人々との信頼関係を築きながら成長していく上で、重要な働きをしているといえる。

【3】

出題意図

発達心理学の研究を実施する際に必要となる統計解析に関する基礎的な理解力、読解力を判定すること(1)。研究成果を実践に活かすエビデンスベースドプラクティスに関する判断力と表現力を判定すること(2)。

正答例

- (1) サポートと虐待傾向に関するクロス集計表から虐待群は非虐待群と比較して、子育ての協力者がいない傾向があり、虐待群は被虐待群と比較して、援助者がいないと答える傾向にあるといえる。
- (2) 表の結果から、児童虐待の発生を予防するためには、保護者の子育てを協力する存在、そして援助者が必要であるといえる。親族や友人からの日ごろからの支援が得られればそれが重要だと考えられるが、それが得られない場合、地域の子育て支援センターでのふだんの相談や民生委員児童委員による訪問等、そして、子育て不安等、児童虐待のリスクが生じている場合には、心理士、保健師、社会福祉士等による専門的な支援が重要であると考えられる。

図表出典

大原 美知子(2003). 母親の虐待行動とリスクファクターの検討：首都圏在住で幼児をもつ母親への児童虐待調査から. 社会福祉学, 43, 46-57.

【4】

出題意図

発達心理学についての基本的な知識を有し、具体例とともに説明できるかどうかを見る。

正答例

遺伝的要因と環境的要因とはそれぞれが独立に発達に作用するわけではなく、遺伝的要因は特定の環境条件のもとで初めて発現する。言い換えれば、ある遺伝的素質をもって生まれたとしても、その発現に適した環境に出会わなければ、実際の発達として現れることはないというのが遺伝と環境の相互作用の考え方である。

たとえば、かつてハワイで実施されたカウアイ島研究によれば、先天性の障害や知能検査の得点がボーダーラインである等の遺伝的要因をもった子どもたちは、成長して問題行動を多発するなどの社会的不適応の状態に至ったわけでは必ずしもなかった。それらは確かにハイリスク要因ではあったものの、周囲の情緒的・教育的サポートを得たことで自己コントロールのスキルや意識を育てるなどして、社会に適応し健全な若者に成長した者が少なくなかった。